

H19 年度第 2 回事前調査検討専門部会 / #9 SSP 後打ち合わせ 議事次第

日時：2008 年 1 月 30 日（水）14：00～17：00

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）

専門部会長：芦 寿一郎（東京大学）

専門部会委員：岡野 正（海洋研究開発機構）小平秀一（海洋研究開発機構）中西正男（千葉大学）*三浦誠一（海洋研究開発機構）*矢口良一（三井石油開発株式会社）山本啓之（海洋研究開発機構）辻 喜弘（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）

S S P委員：金松敏也（海洋研究開発機構）白井正明（東京大学海洋研究所）田中明子（産業技術総合研究所）松田博貴（熊本大学）朴 進午（東京大学海洋研究所）

事務局：加賀谷一茶 吉岡由紀

欠席者（敬称略）

専門部会委員：荒井晃作（産業技術総合研究所）加藤幸弘（海上保安庁）*☆日野亮太（東北大学）

* 兼 SSP 委員 ☆ IODP 部会執行部会担当

議事次第

【報告事項】

1. プロポーザルの提出状況[事務局]
2. #9 SSP 報告[矢口 SSP Vice-chair]
3. 最近の海洋調査と今後の予定[関係委員]
4. 今年度の IODP 事前調査概要
 - ・南西諸島 [松田委員]
 - ・日本海/東シナ海 [芦部会長]
5. 来年度の IODP 事前調査
 - ・三陸/常磐沖 [芦部会長]

【審議事項】

1. 地下構造調査に関するアンケート
2. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方
3. 今後の SSP について

配布資料

- | | |
|-----------|--------------------------------------|
| 資料 2-1 | 前回（臨時_070926）議事録（案） |
| 資料 2-2 | プロポーザルの提出状況 |
| 資料 2-3 | #9 SSP Mtg. 報告書 |
| 資料 2-4 | H19 年度 CDEX 関連調査実績/H20 年度計画 |
| 資料 2-5(1) | アンケート回答_No. 477-Fu114[九州大学：高橋氏] |
| 資料 2-5(2) | アンケート回答_No. 612-Fu113[産業技術総合研究所：山崎氏] |
| 資料 2-5(3) | アンケート回答_No. 718-Pre [東京大学：平野氏] |
| 資料 2-6 | SSP ローテーション(案) |
| 参考資料 | IODP/ICDP/J-DESC H19～20 年度 Schedule |

議事録（案）

資料の確認

本日の参考資料の確認が行われた

前回議事録確認

前回の議事録を確認し、訂正があればメール等で申し出ることが伝えられた。

『報告事項』

1. プロポーザル提出状況（事務局）

添付の参考資料 2-2 を基に、事務局から現在のプロポーザルステータスについて以下の説明がなされた。

- ・ 全世界で 17 プロポーザルが新たに提出され、日本からはその内 3 プロポーザルが出された。
- ・ 現在のアクティブプロポーザル数は、117。日本からは 19。アクティブプロポーザルのステータスは SSEP 71 SPC 21 OTF 25。
- ・ 今度の SPC でこの 25 プロポーザルの再レビューが行われ、OTF 25 プロポーザルは今後減る予定。
- ・ IBM は二度目のフルとしてだされている。
- ・ 727-APL 折橋氏からのプロポーザルは完全に新規のプロポーザル

2. SSP 事後報告（矢口委員）

資料 2-3 を参照しながら、SSP 会議全体の報告が行われた。資料に補足して以下の情報が報告された。

i. 将来の IODP 関係会議への SSP からのリエゾン

- 2008 年 3 月 SPC 会議には現チェアの Dale Sawyer がリエゾン出席
- 2008 年 6 月 EPSP（ヒューストン）リエゾンは未定
- SSEP は 5 月にプサン開催。日本からのリエゾン出席が期待されているが、未定

ii. 日本人リードプロポーネントのプロポーザル評価

- プロポーザル一覧を参照しながら特に日本から提出されたプロポーザルに関して評価の詳細が報告された（601 高井：1Ba, 605 多田：1Aa, 697 田村：2Ab-2Ac, 727 折橋：3Bc-2Ca などの範囲で評価が分かれた）

以上の報告の後、以下の補足質問等がなされた

- ・ SSEP 韓国のホストは李氏
- ・ 評価での 1Ba や 1Aa などの方式の再確認が行われた
→1Ba の意味は、厳密に言えばフォームがひとつだけ足りない、という状況で、そのフ

フォームが提出されれば自動的に 1Aa となる

→表示の 3 文字目がデータクオリティなどを表す値で A でないと好ましくない、というのが恐らく SSP コンセンサス

- ・ 評価方式の確認後に、今回 SSP で評価された日本人プロポーネントのプロポーザルに関する議論・状況確認が行われた

3. 最近の海洋調査と今後の予定

i. 岡野委員より、資料 2-4 に基づき、CDEX 関連の調査実績報告ならびに平成 20 年度の調査計画の報告が行われた。

➤ 調査実績報告

相模湾/房総沖「うらしま」、相模湾/房総沖/下北半島東方沖「かいよう」、沖縄トラフ「かいよう」(高井氏プロポーザル関連の掘削安全のための事前調査)

➤ 平成 20 年度調査計画

房総半島沖・伊豆小笠原海域における事前調査. JAMSTEC「うらしま」を用いた相乗り調査,

ii. 金松委員より、熊野沖での調査の報告が行われた

iii. 小平委員より、IFREE による 2008 年地震探査航海の紹介が行われた

IBM 探査・房総沖探査などについての簡単な紹介

iv. 辻委員より、JOGMEC 国内基礎調査に関する報告が行われた

三次元物理探査船、PGS と作業実施。船名「資源」(プレスリリースは経済産業省の HP で閲覧可)

・ 来年度の調査計画は現在未公表

・ オペレーションは国からの委託

v. 芦部会長より、実際の掘削の話題提供として南海掘削 315 報告が行われた

「ちきゅう」の人員 transition (314-315-316 間) 等についての説明

Riser Pilot 掘削報告, Expedition 残り期間での追加掘削報告, 成果報告が行われた

vi. 芦部会長より、白鳳丸での調査報告が行われた

白鳳丸は南極にて物理探査・ドレッジなど様々実施した。今後古海洋調査, Seismic も実施予定

4. 今年度の事前調査概要

i. 松田委員による、南西諸島 COREF プロジェクト報告

COREF プロジェクトは、サンゴ礁の生態系と環境変動との関係を解明するプロジェクト。プロポーザル作成支援助成を使った事前調査状況の報告(奄美・喜界島)。この報告書は二月中に出る予定であること、今後の調査予定などが報告された

報告を受けて以下の議論がなされた

- ・ データセットはかなり揃っているが、クロスはない状況
- ・ サンプルが取れば説得力が増すだろう
- ・ 近いうちに鹿児島丸でのグラフを依頼しようかと考えている
- ・ サンゴ礁調査では環境問題が影響するのではないか？
→ 証拠映像が必要で、ROV を使ったのにはその意味もある
- ・ 成果報告としては、3月の小泉委員会で報告発表・議論の場がある（事務局）
- ・ 荒井委員と松田委員が連合大会で発表予定

ii. 芦部会長より、多田氏による日本海・東シナ海事前調査の報告が行われた

「かいよう」07-04, 「かいいい」07-12において、6チャンネルの音波探査、ピストンコアの採取も行った。これにてすべての事前調査が終了した。

5. 来年度の事前調査概要

芦委員より、来年度の保柳氏による三陸・常磐沖調査に関する報告が行われた

今年度、淡青丸採択された。保柳氏だけでなく乗り合いの航海で、日程がかなり厳しくなっている。

『審議事項』

1. 地下構造調査に関するアンケート

資料2-5ならびに、3件の回答を参照しながら議論が行われた

- 高橋孝三氏からのアンケート回答
領海の問題でロシア海域が不十分の状態
これはロシア側の反応がなく、お手上げ状態である
- 山崎俊嗣氏からの回答
Phase2はインド洋、南太平洋。これから少しずつ増やしていく予定
- 平野直人氏からの回答
サイエンス面の書き直しをまずは行うとのこと
事前調査準備から実施は再来年度であろう、ということは説明済み

以上の回答レビューを受けて以下の議論がなされた

- ・ 今後のきちんとした広報が必要
- ・ プロポーザル育成委員会が中心になってアンケートを進めていくべき
- ・ 今後は通年募集、というアイデアが執行部会で挙がった
- ・ プロポーザル評価育成委員会(仮)は4月の総会くらいに第一回を行うことを検討中で、メンバーは現在執行部で選定中

- ・ 事前調査部会からのコメントといった形で、執行部会へのインプットが必要
- ・ パネルからのリクエストで事前調査データを取るのではなく、航海の申請には時間がかかるので先行して行ってゆくことが肝要である

2. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方

J-DESC と連携して IFREE では 2009 年度以降の方針を議論中。これに関して小平委員により、資料 2-5 を参照しながら以下の概要解説が行われた。

2009 以降 IFREE では地球内部変動に関する 4 テーマの掘削研究に関わる事前調査を推進し、さらに測線提案型としてそれら以外の掘削研究に関わる構造探査もやっていく。そのために、アンケート等を実施するなどしてきた。IFREE では課題として二つの柱を設定

- OJP に関する総合調査
 - 3-4 年、3 フェーズくらいで探査予定
- 沈み込む前の海洋地殻の地震構造調査
 - Mohole への基礎調査（太平洋の日本周辺側の基本的情報を得る）
 - プチスポットの事前探査
 - 日本の地震研究への寄与
 - Subduction factory へのインプット評価
 - IODP 研究を横断的に調査できる
 - 調査域は、現実的には北海道から東北日本沖

以上の報告を受けて以下の議論がなされた

- ・ プチスポットに関してもかなり地震学的データが提供できる見込み
- ・ 日本の地震研究への寄与を表明することも大事
- ・ 調査域は、5 年というスパンを考えて余り発散させないように計画している

3. 今後の SSP について

人員に関する議論

- ・ 人員削減に関する新たな情報は特になく、既成事実のようであった
- ・ チェアが任期を終えた後、ヨーロッパでは一年間委員として残るそうだが、アメリカは分からないとの回答。ケースバイケースで決定できるらしい。
- ・ 他のパネルでも暗黙でチェアの後一年いることもあるが、パネルによってそれぞれ（事務局補足）
- ・ 2009 年 7 月から新たに 2 名必要となるため留意が必要
- ・ 代理候補を手持ちで持つのが望ましい
- ・ 国内も産業界からの委員が手薄になるため推薦をお願いしたい

COI についての議論

- ・ 白井氏は以前海洋研中村氏のプロポーザルに関して、COI であった
- ・ COI を厳密に論じすぎると Proposal 数が増えてくると日本には厳しくなる（審査できる人がいなくなる）
- ・ ケースバイケースでチェアが判断する
- ・ SPC では現在では SPC Minutes に明文化されておりチェアが最初に必ず説明する
- ・ 自分のデータがたくさん引用されていると COI だと自ら判断した例もあった。基本的にはグレイゾーンはチェアが判断する

その他の議論（SSP 委員ローテーション、2007-2008J-DESC スケジュールを参照）

- ・ 来年からのチェアは 4 回で終了という事を確認
- ・ 次の副チェアと要確認
- ・ プロポーザル育成委員会が発足したときには、メールなどで連絡すること
- ・ 国内委員の任期は、今年度から二年任期に変更になった。今年度からリセットされ、現委員は春から一年間の任期がある（事務局補足）

以上